

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

## sanbi-i-com (No.174)

## 海賊版サイト対策の動向 ⑥

## 広告の抑制

私ども印刷会社の主要顧客である出版業界にとって喫緊の共通課題である「海賊版サイト対策」についてシリーズでお送りしてまいりましたが、今回でひとまず最終回とさせていただきます。

## 1. 広告の抑制

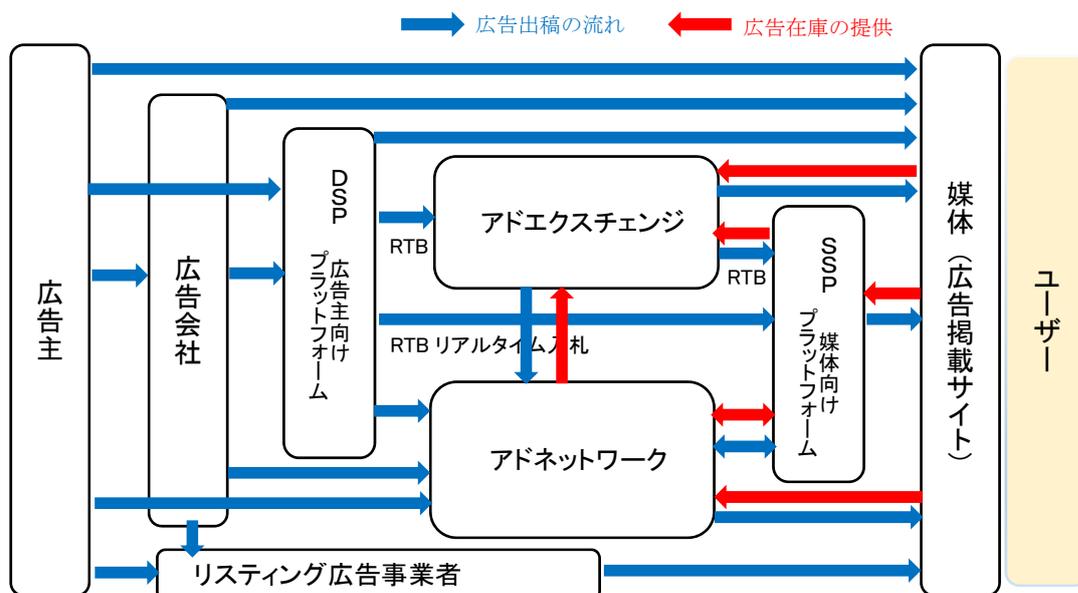
海賊版サイトの主な資金源は広告収入ですので、ここを断つことができれば効果的な対策になります。本シリーズの④で海賊版との戦いを城攻めに例えましたが(改正著作権法は外堀を埋める有効な一手、本丸は防弾ホスティングという内堀で守られている)、広告出稿の抑制はいわば兵糧攻めに当たります。

「海賊版サイトへの広告掲載を違法化して広告主や広告会社に罰則を適用せよ」という意見(暴力団排除条例が暴力団への利益供与を禁じているのと似た考え方です)もありますが、今の所、そのような法制化の動きはありません。代わりに業界団体による自主規制が行われています。2019年10月時点の新聞記事情報では「広告関連団体に所属する事業者の広告

が悪質な海賊版サイトに掲載されなくなるなど、自主規制の成果が出ている。しかし団体に加盟していない事業者の広告掲載は続いている」とのことでした。

ここで疑問に思うのは、海賊版サイトと知った上で広告を出していた悪質な広告主はさておき、一般の堅気の企業の広告もあつたと言われていることです。見るからに違法なサイトに広告を載せたりすれば、企業イメージの毀損を招きますので、まともな会社であれば掲載を避けるはずなのに、何故なのでしょう？

昨今のインターネット広告の仕組みが複雑化して、自動的なプログラマティック取引が増えてきたことが一因です。下図をご覧ください。



図の出典：日本インタラクティブ広告協会(JIAA)の資料「インターネット広告(デジタル広告)適正化の取り組みについて」(2019年11月26日)のp.9、「インターネット広告のフロー概念図」を基に、三美印刷作図

上図の通り、用語の説明は省かせていただきますが、広告主と媒体(広告掲載サイト)の間に、広告会社だけでなく、DSP、アドネットワーク、アドエクスチェンジ、SSP があり、配信先が増えすぎて、広告主はおろか広告会社でさえも、どこに広告を配信したのか把握しきれなくなっているのだそうです。その結果、違法サイトと知らずに配信されてしまったのでしょう。

このように技術的な困難があるとはいえ、前述の新

聞記事情報によれば、自主規制参加事業者からの悪質サイトへの広告掲載を無くしているそうですから、やればできることも分かっています。

加えて広告主側にも「広告関連団体に加盟していない(自主規制に参加していない)広告関連サービスの事業者には発注しない」という機運が高まっていけば、さらに効果を上げられることでしょう。

## 2. 海賊版対策の中核となる新団体、一般社団法人 ABJ が本格的に活動開始

つい先日の 10 月 20 日付で標記の新団体 ABJ が本格的に活動開始したとのアナウンスがなされています。詳しくは[出版広報センターのホームページ](#)のお知らせ欄に本件のパブリシティ文書(PDF)へのリンクがありますので、そちらをご覧ください。

なお、ABJ は Authorized Books of Japan の頭文字

であり、この団体の名前だけでなく、ABJ マークというマークの名前にも使われています。マークの意味は「この電子書店、電子書籍配信サービスが、著作権者からコンテンツ使用許諾を得た正規版配信サービスであることを示す登録商標です」とのことです。

## 3. 海賊版と FREE

海賊版ではなく、著作権者が意図的に無料にする例も、以下のようにいくらでも考えられます。認知してもらうことを優先させて、あえて戦略的に無料にする訳です。

- ・複数巻に及ぶ長編漫画の一部を無料公開  
(続きを読みたいという欲求を喚起)
- ・書籍のダイジェスト版を無料公開  
(フルバージョンを読みたいという欲求を喚起)
- ・書籍 1 冊をまるまる全部無料公開  
(講演やコンサルティングのための認知度向上)

「無料」については、世界的ベストセラー『ロングテール』の著者であるクリス・アンダーソンが『FREE』という本(これもよく売れました)で、デジタルの情報が無料に向かう理由と必然性を見事に洞察しています。無料からビジネスを生み出す新戦略の事例紹介も豊富で、ビジネスマンの必読書かと思うくらいの良書で

すが、いかんせん海賊版に対してやけに甘いのが不満点です。

意図的無料版と海賊版には、無料という共通点がありますが、著作権の有無という明白な違いがあります。それなのに『FREE』は、「海賊行為は重力のようなものだ。止めようとしても重力が勝ち、その物体は落ちる」と例えて、法則なので仕方ないという見方を述べており、海賊版を擁護するかのよう感じられます。稚拙ながら、同じく重力の例えで反論してシリーズを締めさせていただきます。重力といえばニュートンのリンゴということで; 「リンゴを収穫してよいのは育てた農家であり、赤の他人ではない。重力があっても、網でもかぶせておけば落ちない」。

(第 174 回: 2020 年 11 月 13 日)